

環境への負荷が少ない商品・サービスの優先的購入を進める地域ネットワーク

CONTENTS

- REPORT1 2002年度通常総会開催内容 1
- 講演会内容「グリーン購入法と施行後の現状」
パネルディスカッション「グリーン購入の実情～表話・裏話」 3
- 役員紹介・役員団体名簿 4
- REPORT2 食のグリーン購入研究会 5
- REPORT3 機密書類処理方法研究会

- 滋賀県グリーン購入基本方針 6
- グリーン購入取り組みガイドンス 活動報告・活動予定
- エコに学ぶ 7
- 「RVM」システム/TMエルデ株式会社
- リレートーク 「だから今、グリーン購入！」 8

平和堂環境対策室 西塚哲夫

Report 1 2002年度通常総会開催



- 日 時 2002年5月28日(火) 午後1時30分～4時40分
- 場 所 ピアザ淡海 県民交流センター 大会議室
- 参加者 150名

今年度の事業として、ホームページで環境対応商品や売っているお店が検索できる情報サイト「情報プラザ滋賀」「エコどこナビ滋賀」の設置、「グリーン購入」普及啓発を目的とした「グリーン購入キャンペーン」(P7参照)を展開することなどが承認されました。

土屋代表幹事の挨拶、来賓の方々のご祝辞、議事終了後の講演とパネルディスカッションの内容をご紹介します。

- ◆議事 1) 2001年度事業報告について
2) 2001年度収支決算について
3) 2002年度事業計画(案)について
4) 2002年度収支予算(案)について
5) 役員改選について
- ◆講演 テーマ 「グリーン購入法と施行後の現状」
- ◆パネルディスカッション テーマ 「グリーン購入の実情～表話・裏話」

「質的向上で更なる発展を」

3回目の総会を迎えることになりました。会員数も増え、研究会などの活動も回を重ねて一定の成果を上げています。現在様々な意味で社会が曲がり角にきており、中でも最大の問題が環境問題であると言われています。私たちは環境に負荷の少ない生活を目指して、この滋賀県でグリーン購入に取り組む団体の組織拡大に努めてきましたが、今後はその運動内容を質的に向上させることが必要です。

しかし我々に課せられた使命は生易しいものではなく、グリーン購入が経済社会・市民社会に大きく反省を迫るものである以上、ある意味で「百年戦争」とも言える長期的な取り組みになるでしょう。

昨年の「グリーン購入フォーラム」でドイツからお招きしたフォルクハード・メッカー氏に、日本の環境問題についてコメントを求めた際「ドイツでは、そういう議論は5～6年前に済んでいます。」と言われたことが強烈な印象として残っています。

3年目の総会を迎えたことを機に、改めて全国の模範となるようなリーダーシップを發揮することのできる組織として、更なる発展を遂げることを願ってやみません。



代表幹事
土屋 正春

講演

小さな活動から
大きな成果を



滋賀県琵琶湖環境部 次長
川尻 嘉憲さん

滋賀グリーン購入ネットワークが発足以来、環境に負荷の少ない物品の購入への取り組みを進めて来られたことに対し感謝と敬意を表します。

琵琶湖の美しい眺めの背後に、様々な環境問題が横たわっており、それを解決するには世界的・地球的規模の取り組みが必要なのは言うまでもありませんが、それぞれの場での小さな活動が結果として大きな成果につながっていくのだと思います。1996年からグリーン購入に取り組んできた滋賀県も、グリーン購入法制定を機に取り組みを一層強化するため、今年4月「滋賀県グリーン購入基本方針」を新たに定めたところです。次の世代の環境を保持するための循環型社会の形成、「自然と人が輝くもう一つの社会」を創っていくためにも、グリーン購入がより一層推進されることを願い、今後の滋賀グリーン購入ネットワークの発展と皆さんのご健勝をお祈り申し上げます。

◆テーマ 「グリーン購入法と施行後の現状」

環境省 総合環境政策局環境経済課 課長補佐 藤塚 哲朗さん

グリーン購入法の特定調達品目は改定を重ね、公共工事、設備、サービスまで広げて、現在150品目になりました。今後もっと増やして、電力や食品などの分野も入れることを考えています。

しかし、グリーン購入は最終目的ではありません。それを一つの手段として、循環型社会を作っていくのが目的なのです。環境問題を振り返ってみると、昭和30年代は産業型・工場型公害ということで被害者と加害者が分かれていきました。これが40年代後半から50年代に入ると、河川汚濁や大気汚染などの都市生活型公害（被害者と加害者が同じ）になり、最近はそれに加えて有害化学物質問題、地球温暖化問題など、今いる我々が加害者で未来の人々が被害者になっていくような環境問題が発生しています。これを何とかするために、何ができるか。まずできることがグリーン購入なのです。

グリーン購入というと自動車も注目されていますが、国の公用車7000台は平成16年までにすべて低公害車に替える予定です。トップが大型車に乗っている企業は、グリーン購入をしている企業とは言えないのでしょうか。未



来の人々を被害者にしないために、これからは小さな車に乗ることや再生紙を両面使うことが社会的ステータスなんだというよう、マインドの切り替えがなされていくことが必要ですね。

滋賀県から「グリーン購入のムーブメント」が起こり、国を動かし法の制定にまで至りました。グリーン購入を進める上で「地域の実情に応じた取り組み」がとても大切です。現在地域ネットがあるのは滋賀県の他に福井県だけで、京都府、東海3県1市（愛知県、岐阜県、三重県、名古屋市）などで立ち上がる計画がありますが、「滋賀方式」はとても良いお手本になると思います。トップランナーとして、滋賀の情報を全国に向けて発信していってほしい。環境省も応援ていきます。

※グリーン購入法の詳細については
環境省ホームページをご覧ください。
<http://www.env.go.jp/policy/hozon/green/g-low/>

●藤塚哲朗さんプロフィール

建設省、外務省を経て環境庁（省）勤務。低公害車、共用自動車の導入をはじめとする率先実行計画、国等の機関が率先してグリーン購入を実施しグリーン購入製品に関する情報を提供するグリーン購入法担当。

環境省 総合環境政策局
環境経済課 課長補佐 藤塚 哲朗さん

パネルディスカッション

◆テーマ 「グリーン購入の実情～表話・裏話」

コーディネーター：土屋正春さん 滋賀県立大学 教授

パネリスト：石川政和さん 琵琶湖ナショナルファミリー会
松下電器産業株式会社 エアコン社
環境保護推進チームリーダー

久保貴裕さん 湯元館 接客部部長兼環境管理事務局長
黄瀬紀美子さん アイネットワーク 代表
麹谷和也さん コクヨ株式会社 環境マネジメント部 部長

グリーン購入の実情について、本音での議論が繰り広げられました。その一部をご紹介します。

土屋：滋賀GPNもいよいよ成長期。
表話、裏話1歩進んだ話を。

石川：作る側として、環境配慮の製品づくりは会社の使命ですが、市場はまだ価格優先です。家電量販店でも省エネのランニングコスト表の表示が義務づけられる

とあります。コストも技術もデザインもスピーラップアップされています。

久保：購入する側に立つと、商品

もサービスも販売者の情報提供だけが頼りですからね。

麹谷：メーカー努力だけではグリーン購入は広がらません。企業である以上ビジネスとして成り立たないとダメ。グリーン購入を国や自治体で進めさせていただけるのはありがたいですが、一般消費者の認識はまだ低いですね。

黄瀬：購入を決めるのは消費者。良いものだとわかっていても現実には安い方を買います。環境にやさしくて安いものを提供してくだされば、売れるようになります。

石川：昨年は安いエアコンが売れたのですが、エアコンのエコ率は確実に伸びていて、環境にやさしいものが結局はコストも安くなるのです。ヨーロッパでは売り場での省エネランクの表示が普通で、消費者は製品の条件が判ったうえで購入しています。売り手と買い手の条件が整っているのです。日本も売る側の努力が大切かもしれません。

ませんね。

黄瀬：先進諸国では市民運動が役立っているようです。100の理論より1つの実践、まず、自分自身が行動を起こすことが大切だと思います。

麹谷：「環境商品しか買わない」といわれれば、メーカーは作りますよ。コストも技術もデザインもスピーラップアップされています。

久保：宿泊施設を選ぶときも「エコの宣言をしているホテルしか泊まらない」という方が増えてほしいですね。意識の共有化のためにお客様にアンケートをしてみると、環境に対して90%が心をもたれているのですから。湯元館では、いつももっとエコ商品はないかとサービス業としての環境に配慮の姿勢をお客様にPRしています。

黄瀬：便利・快適・使い捨ての20世紀から資源を大切にする21世紀への誓いを立てる時だと思います。私たちが環境問題に危機感を持って、人として親として、まわりにも伝えていきたいですね。

土屋：人は皆、企業人である前に家庭人なのです。家庭人として次の世代に思いを馳せなければなりません。生活に密着したところからグリーン購入が始まり、個人個人がやれるところから始めることが大切で、実行し続けることで、子供の世代、孫の世代まで良い環境を守って行けるのです。あとは皆さん、ここからどうするかにかかっています。

地域での活動に
大きな期待



グリーン購入ネットワーク代表幹事
麹谷 和也さん

本日の通常総会が盛大に開かれたことをお祝い申し上げます。今年で7年目を迎えたグリーン購入ネットワークのこれまでの大きな成果として、昨年4月の「グリーン購入法」の成立が上げらますが、なによりも会員の皆さんの支えがあってこそ、今まで活動を継続・拡大させることができたのだと思っております。しかし、これまでの6年間は「創成期」であり、今後は活動領域の拡大と質の強化を図らなければなりません。サービス・金融・食品など身近な領域へと活動を広げることも当然必用となってくるでしょう。

グリーン購入をもっと身近で親しみやすいものにするために、地域での活動に大きな期待が寄せられています。滋賀グリーン購入ネットワークの存在は他府県から注目されており、「環境こだわり県」滋賀県はいつまでもその旗を掲げ続けていて欲しいと思っています。滋賀グリーン購入ネットワークが今後、より大きな成果を上げられることを心から期待しています。



役員紹介

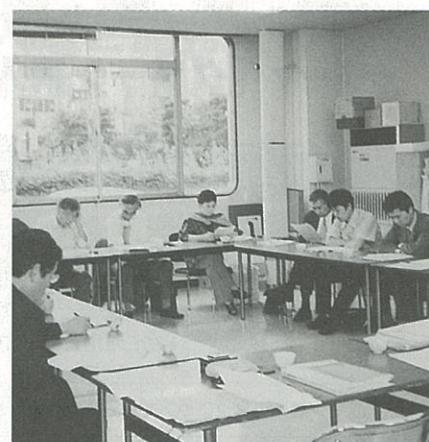
任期:平成14年5月28日~平成16年5月31日

■代表幹事

グリーン購入が定着するにはまだ年月が必要ですが、未知のレースで先頭を切る私達には大切な課題があります。それは、グリーン購入市場が…兆円規模になったというような小さなこと（！）ではなく、20世紀型社会から21世紀的社會へ移る歴史的な実験をしているという自覚の問題です。皆さんはいかがですか？ 奥は深いですよ、この運動は。

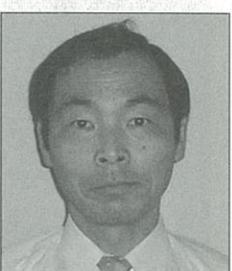


滋賀県立大学
環境科学部 教授
土屋 正春



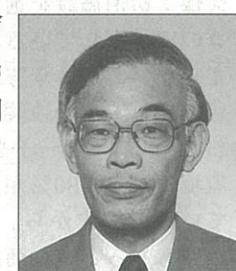
■常任幹事

滋賀GPNは全国組織のGPNと連携をとりながら、地域に密着した活動を目指し、全国に先駆けて滋賀独特の活動を展開しています。地域性を生かし、会員間の情報交換により、グリーン購入活動の輪がさらに広がることを期待しております。



関西日本電気株式会社
環境・工務センター 主任
三好 君雄

滋賀GPNは会員360団体に達し、全国GPNの中でも中心的な立場にあります。目的とする省資源・資源循環型社会の構築に貢献するための実践促進事業、普及啓発事業も会員の熱心な協力の下に定着し、加えて独自の研究会活動が生み出す効果にも期待しています。



株式会社滋賀銀行 総合企画部
次長兼ふれあい環境室長
富江 政和

グリーン購入の目指すもの、アンケート調査による意識動向などは数多く語られきましたが、大きく時代を動かす力にはなっていません。具体的なライフスタイルの転換がなされていないためです。雨水や太陽光の利用、せっけん使用等のPRを通して、実際にモノが確実に動くところまで、消費者の意識を高めていきたいです。



滋賀県環境生活協同組合
理事長
藤井 純子

役員団体名簿

代表幹事

滋賀県立大学環境科学部教授
土屋 正春

常任幹事

関西日本電気株式会社
株式会社滋賀銀行
滋賀県環境生活協同組合

幹 事

(アドバイザー)
同志社大学経済学部教授
郡嶋 孝

(企 業)

関西電力株式会社 滋賀支店
キリンビール株式会社 滋賀工場
株式会社桑原組
小林事務機株式会社
昭和電工株式会社 彦根事業所
新江州株式会社
ダイキン工業株式会社 滋賀製作所
株式会社たねや
東陶機器株式会社 滋賀工場
長浜キヤノン株式会社
株式会社ヒサダ昭栄堂
琵琶湖ナショナルファミリー会
株式会社平和堂

(消費団体等)

アイネットワーク
滋賀県立大学グリーンコンシューマーサークル
生活協同組合コープしが
社団法人 八日市青年会議所

(行政機関)

滋賀県、大津市、彦根市、
愛東町、野洲町

会計監事

株式会社びわこ銀行
今津町

Report 2 食のグリーン購入研究会 第1回研修会

2002年6月5日（水）参加者：25名

食べ物は私たちにとって命の糧であり、最も購入頻度の高い商品であると言えますが、この数十年にわたる食のグローバル化の結果、そのシステムが環境に及ぼす影響も計り知れないものになってきています。

環境のことを考えた本来の食のあり方を選択し、購入する人を増やしていくという思いからスタートした「食の研究会」。第1回目の研修会では、まず、近畿で初の「エコファーマー」の認定を受け、環境に配慮した米作りや野菜の直売を行う八日市市の「糠塚町生産組合」を見学。こちらで製造販売されている珍しいお米のパンの試食もさせていただきました。

その後、蒲生町に移動して、耕やさない「不耕起農法」で琵琶湖に農



「研修会に参加して」

新江州株式会社
プランセル事業部
大津営業所 竹内 真美

たくさん植えて化学肥料や農薬を多量に使用した田圃と、少なく植えて薬品を使わず育てた田圃。お米の収穫量は変わらないとか。毎日口にするものだから、安全でおいしいものを選びたいですね。お米のパンの味も格別でした！いろんな方とふれ合えて楽しかったです。

機密書類処理方法研究会 第3回研修会

2002年6月19日（水）参加者：30名



トイレットペーパーなどに再生。ミックスペーパー100kgが、約70kgのトイレットペーパーに生まれ変わり、再生品を排出企業が使用することでリサイクルの輪が完成するシステムで、自治体や金融機関などで採用されています。

「機密処理研」では、これまでに3回の研修会を開催し皆さんと共に学んでまいりましたが、今後は『学んだ機密書類の処理事業を滋賀GPNで立ち上げる』ことを企画会議で検討していく予定です。興味がおありの方、企画会議に参加してみたい方は事務局までご連絡ください。

同社のリサイクルシステムは一般的の廃棄文書に加え、シュレッダー細断紙やノーカーボン紙、感熱紙などのミックスペーパーも無選別で引き取るのが特徴。これらをストックヤードに収集して一定量蓄積した後、製紙工場に持ち込んで

Report 3

「研修会に参加して」

ゼネラル株式会社滋賀工場
品質保証課 ISO担当 大森 崇史

当工場においても、紙類の分別収集・再生を行っていますが、剥離紙など通常の手段では再生できないものについては、委託処理せざるを得ない状態でした。

明光商会のシステムは運用方法によっては、環境負荷及びコストの削減に大きく寄与するものと思われます。

ただ、ISO17799や廃棄物行政の現状等の説明を、もう少し詳しく聞きたかったと思いました。

株式会社アヤハディオ
生活支援サービス部 村瀬 雅樹

私はアヤハディオ本部でISO14001認証取得活動中で、特に紙類の分別・リサイクルに重点をおいており、情報収集の一環として今回の研修会に初めて参加させていただきました。

シュレッダー屑のリサイクル処理は今後取り組まざるを得ない課題であり、今回は基礎知識の習得に有益でした。機密書類の処理については大津板紙様のリサイクルシステムを採用予定で、現在社内の運用方法について検討中です。

またインハウス処理を含めたコンプライアンスの構築やISO17799の紹介も興味深い内容でした。

エコ情報室

滋賀県グリーン購入基本方針

滋賀県では平成6年9月からすべての県機関で全国に先駆けてグリーン購入の取組を実践されていますが、平成13年4月にグリーン購入法が施行され、国の基本方針においてグリーン購入の対象分野が物品に加え、設備、公共工事および役務に拡大されています。この趣旨を踏まえ、県民・事業者とともにグリーン購入の取り組みの一層の充実と発展を図るため、平成14年4月に「滋賀県グリーン購入基本方針」が策定されました。

概要

(1) 基本的な考え方

- ・物品等の総量を節減する
- ・物品等の必要数量を計画的に調達する
- ・物品等のライフサイクル全体を考慮する
- ・事業者の環境負荷低減努力を評価する
- ・新たな取組に絶えず挑戦する

(2) 県庁におけるグリーン購入推進戦略

- ・県のあらゆる分野でのグリーン購入を目指す
- ・納入事業者等に協力を要請する
- ・県民・事業者の取組を支援する

(3) 推進方策

- ・グリーン購入推進の各分野ごとの幹事課を定める
- ・グリーン購入に係る主要な取組事項をISO14001に基づく環境マネジメントシステムのプログラムに位置づけ、毎年度、取組目標を設定し、同環境管理体制に基づき推進する
- ・基本方針の内容は、社会情勢の変化、取組状況等を踏まえ、幹事課を中心に適時に見直す

(4) 公表

毎年度、取組の実施状況を目標に照らし評価し、公表する

※詳細は滋賀県ホームページをご覧ください。

<http://www.pref.shiga.jp/d/kankyo/020419a/kihonhosin.htm>

活動報告

- 4.22 第9回幹事会
- 4.29 「草津宿場400年祭・第34回草津宿まつり」協賛・参加
- 5.28 2002年度通常総会
- 6. 5 食のグリーン購入研究会 第1回研修会
- 6. 7 第4回評価手法研究会企画会議
- 6.19 機密書類方法研究会 第3回研修会
- 6.20 第10回幹事会
- 7.14 「ひこねエコフェスタ2002」協賛・参加
- 7.25 第1回グリーン購入セミナー

活動予定

- | | |
|---------|------------------------------|
| 9. 6 | 第2回グリーン購入セミナー「製造業の取り組み事例に学ぶ」 |
| 10.1~31 | グリーン購入キャンペーン |
| 10.8 | グリーン購入シンポジウム（エコデザインセミナー） |
| 11.6~8 | 「びわ湖環境ビジネスメッセ2002」協賛・参加 |
| 11.8 | グリーン購入フォーラム・会員交流会 |

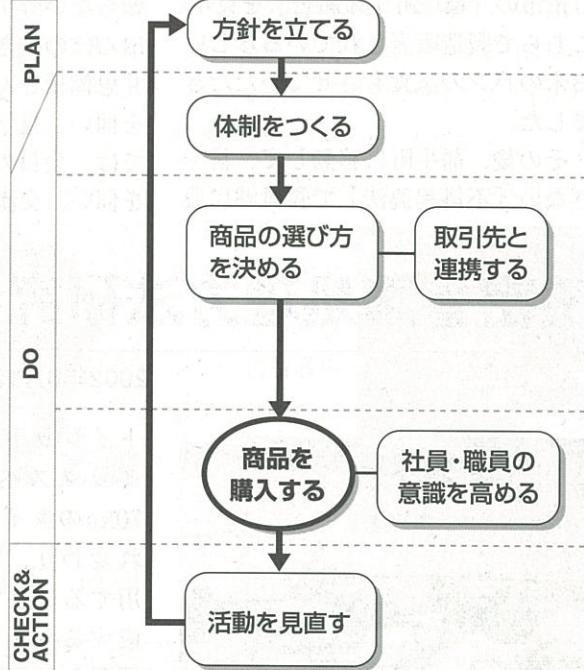
8月に評価手法研究会の研究の一環として、会員の皆さんにアンケート調査をお願いする予定です。ご協力をよろしくお願いします。

グリーン購入取り組みガイド

グリーン購入の取り組みは、これまで各団体がそれぞれのやり方で試行錯誤しながら進めてきましたが、優れた取り組み事例（歴代『グリーン購入大賞』の入賞団体の事例）をベースとして体系化し、プロセスごとの実践のノウハウをとりまとめた「取り組みガイド」を、グリーン購入ネットワークが作成しました。商品の選び方やコストについての考え方など、実践の上で課題となりがちな事柄について克服・調整のポイントを示しています。

※詳細はグリーン購入ネットワーク【会員専用ホームページ】をご覧ください。

グリーン購入実践の流れ



エコに学べ！

TMエルデ株式会社 常務取締役 本江 宗明

「RVM」システム

私たちは、住民の環境への積極的な参加こそが資源循環型社会を実現可能にすると考えます。

RVM（リバース・ベンディング・マシーン）は、自動販売機の逆で「空き缶飲料容器」を回収する機械のことです。この装置は、空き容器を投入すると容器のバー

コードを瞬時に読み取り、アルミ缶とスチール缶、ペットボトルの無色と有色等を分別します。

当社では、ただ単に機械を販売・設置してご利用いただくのではなく、どうしたら「RVM

マシーン」に投入してもらえるか、また、処理物の「回収」「再資源化」や機械の「メンテナンス」を一括して提案・実施しております。たとえば、商店街のカードやチケットをセットして空き缶を投入すると、ポイントが加算され商品と交換できるといったようなシステムをご提案しています。

消費者に利便性（インセンティブ）を提供しながら、リサイクル運動に参加していただくのです。「ポイ捨て」を予防し、地域商業の



活性化につなげるとともに、「回収」は地域の「福祉作業所」との連動を積極的に進め「雇用の創造・創出」をも図ります。

「ハードをお買い上げいただく」から「サービスをご利用いただく」「しくみ」の展開が当社の目標で、今後はトレー・紙パック等を含めた「総合リサイクル事業」との連動を目指します。

[お問合せ] TMエルデ株式会社
TEL:0749-24-7101 FAX:0749-24-7108
URL:<http://www.tm-erde.co.jp>

「10月はグリーン購入キャンペーン月間です！」

滋賀GPNでは今年度より10月を「グリーン購入キャンペーン月間」と定め、会員内外に「グリーン購入」の意義を広め、実践を呼びかけるキャンペーンを展開する予定です。皆さまの社内・団体内でも、ぜひ、ご協力をお願いします。

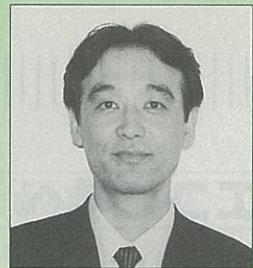
〈お問い合わせ取り組み〉

- ホームページ、広報誌（社内報）でのPR
- 期間内、社内放送でのPR
- 社内・団体内研修会等の開催

グリーン購入
キャンペーン

その他、特に販売・サービス業の皆さまには、店内放送による「グリーン購入」の説明・PRをお願いすると共に、陳列・表示方法等の工夫による積極的な「グリーン商品」の販売、簡易包装の推進や買い物袋持参の呼びかけ等をお願いします。

リレートーク Relay Talk 「だから今、グリーン購入！」



平和堂 環境対策室
西塙 哲夫

グリーン購入へ新たなスタート

平和堂では今年度から新たに環境マネジメントシステムの運用を開始し、グリーン購入についても新たな視点で具体的に目標を立て取り組む体制を整え、取り組みを始めたところです。

従来からも制服・チラシ・商品パック用のラップ・店舗の玄関マット等、単発的にグリーン購入については推進をしてきましたが、いつまでに、どの範囲まで推進しようとか、対象品の基準はどうあるべきかの論議が不十分なまま取り組んできた感がありました。

そうした中、今年度から「グリーン購入ワーキンググループ」を社内で組織し、まず、取り組み分野を決めて社内基準を作成し、基

準内の調達ができるだけ推進し、対象分野を拡大していく方向で取り組んでいます。特にGPNのデータブックにはほとんど掲載されていませんが、平和堂では使用量の多い「包装資材」や「販促資材」等にも積極的に取り組んでいます。

一方、小売業としてグリーン商品の販売にも「環境商品ワーキンググループ」を同時期に組織し、商品選定や販売方法を合わせて検討を進めています。まだまだ、どちらもこれから取り組み次第といった状況ですが、調達と販売の両面からグリーン購入を推進していきたいと思います。

こうした意味で滋賀GPNでも、より具体的な話し合いができる場

や指導していただける場ができる期待しています。また、全国ネットワークにはないローカルネットワークならではの良さが出せる滋賀GPNであってほしいと思います。

次回は新江州株式会社さんに、お願いします。



お知らせ

滋賀GPNでは秋にシンポジウムやフォーラムを計画していますが、その際、環境配慮型商品の出展展示、商品紹介（プレゼン）をしてくださる会員企業を募集します。詳しくは事務局までお問い合わせください。

11月8日のフォーラム終了後、会員なら誰でも参加できる交流会を開催します。最近、「グリーンな商品やサービスを、滋賀GPNの会員として同じ会員から購入したい」という声を耳にします。ぜひ、会員相互の情報交換の場としてお役立てください。

新規入会会員

2002年3月6日～2002年6月30日

- | | |
|-------------------------|------------|
| 森正商事株式会社 | 有限会社今井洋家具店 |
| 福田白衣株式会社 | 和研薬株式会社 |
| 有限会社正野博文堂 | 湖北総合開発株式会社 |
| 株式会社アテスト | 株式会社近畿理研 |
| 株式会社桑原組 | うーび企画 |
| 日本メンテナスエンジニアリング株式会社滋賀支店 | |
| 内外エンジニアリング株式会社 | |

編集・発行／滋賀グリーン購入ネットワーク事務局

〒520-0044

滋賀県大津市京町三丁目4-22 滋賀会館1階

社団法人滋賀県環境保全協会内

TEL.077-510-3585 FAX.077-510-3586

E-mail:sgpn@oregano.ocn.ne.jp URL:<http://www.shigapn.gr.jp/>

デザイン／うーび企画 印刷／AINZ株式会社

このニュースレターは、GPN-GL14「オフセット印刷サービス」発注ガイドラインに基づき作成しています。

用 紙：古紙配合率100%、白色度70%「OKプリント上質エコG100」（王子製紙）

印 インキ：レベル2に該当する植物油含有量20%以上「TKハイエコーSOYシリーズ」（東洋インキ）

